



2015年 生物工学功労賞 受賞

受賞にあたって



株式会社エー・イー企画
取締役会長 西尾 敏男

この度、日本生物工学会功労賞という荣誉ある賞を頂きましたことは、学術学会として研究に携わらない、サポートをする私にとっては大変驚きであり、戸惑いも感じました。

私は産業広告という分野が世間によく知られるようになった1965年に産業広告専門の広告代理店に入社し、B to Bの広告に携わるようになりました。日本は東京五輪後で、基幹産業が活躍し始め、同時に学術学会も活性化してきた時期で、電気学会、電気通信学会、日本建築学会、日本化学会、日本医学会、日本薬学会といった学会は多くの会員を抱え、年會を盛會に行い、学会付設学術展示會も多くの企業が盛大に装飾をするなどPRに力を入れておりました。私が入社した(株)中外広業社(現(株)中外)は、当時、大阪に本社をおく大手企業の企業広告をほとんど一手に取り扱っていましたが、東京に進出するにあたり学術学会の広告を扱うようになりました。それらは、日本農芸化学会、日本生化学会、日本応用物理学会、日本情報処理学会などの学会誌広告、付設展示でしたが、私はその中の生物系、日本農芸化学会と日本生化学会を担当することになりました。学術学会の広告は専門知識や用語を知る必要があり、文科系の大学を卒業した私にとって、最初は生化学や農芸化学などの内容がよく分からなくて大変苦勞しました。その時に醱酵工学会の会誌広告と付設展示にも携わることになりました。その頃の大会は日本生命中之島研修所で行われたのですが、当時の会長故照井堯造先生に恐る恐る挨拶に向きましたところ、一言「宜しく頼むよ!」と言われたのが非常に印象に残っております。

それがご縁で、醱酵工学会の故黒木事務局長とお付き合いが始まり、黒木さんの積極的な意欲に刺激を受け、展示出展會社や、会誌への賛助広告依頼の挨拶回りに毎年同行させていただくことになりました。黒木事務局長は朝から車で精力的に動かれ、初日は神戸の酒蔵メーカー、翌日は大阪の製薬企業、繊維企業、食品企業、さらに次の日は京都の酒蔵企業、ビール会社、精密機器メーカーと、当時の日本の大手賛助會社へどんどん遠慮なしに挨拶回りをされました。それに一緒する中で、学会と賛助企業の立場との関係がよく分かり、醱酵工学会における産学共同の重要性を深く理解させていただきました。

また、出展希望される企業が普段から研究者と協力して実験器具などの開発に努力され、学会付設の展示時に間に合わせるための尽力には頭が下がる思いでした。学会の付設展示が、研究者だけでなく、出展者にとっても

製品の研究開発にとっても大変重要であることを教えていただきました。

その後、醱酵工学会は醱酵微生物の世界から生物工学と生物全般に広がり、また大会の規模も大きくなって関西から全国大会へと広がるなど、日本生物工学会として急速に発展しました。そのおかげで、付設展示ではさまざまな製品を発表するようになり、出展企業も増加してまいりました。

私が1982年に(株)エー・イー企画を立ち上げてから、幸いなことに日本分子生物学会の付設展示にも携わるようになりました。そこで、分子生物関係の出展企業が生物工学の付設展示にも興味を持っていただけるよう努力しました。当初、遺伝子解析の機器などは高額で、生物工学の世界ではすぐに目を向けてもらえず、出展に至るまでも難しく説得に苦勞したものです。しかし研究の速度は驚くほどで、今では分子生物学のテクノロジーの応用で生物工学の研究内容が大きく様変わりしていることを実感しています。

1985年から全国大会が日本各地で開催されるようになり、各大会の特徴を出すために歴代の大会委員長がさまざまな企画を立て、会場探しや会場のレイアウトも工夫されたことで学術学会としての大会がより一層の成功につながっているように思われます。また、研究発表とともに付設展示、懇親會なども盛大になってきました。研究者と賛助企業、さらに支援機器企業との一献交えての懇親會は家庭的なフレンドシップにあふれ、會員同士のコミュニケーションに非常に役に立ち、誠に楽しいひとときです。

私見になりますが、生物を扱っている研究者の方々は根気の要る仕事をされているせいか、人間関係においても協調性に富み、すべて和やかに学術学会が運営されていると感じます。今後、生物工学会は日本の伝統あるバイオテクノロジーの応用を軸として食品から医学、環境の分野まで広がり、ますます世界においてその重要性を増していくと思われます。長い歴史を持ち、常に新しい価値を発信している日本生物工学会と長年お付き合いを続けられたことは、これまで支援いただきました歴代の会長および大会委員長をはじめとする関係者の方々や出展企業の皆様のおかげであり、感謝の念に堪えません。

最後になりましたが、改めまして、研究に携わらない私共に暖かい気配りをしてくださった五味勝也会長をはじめ、諸先生方に、身に余る賞を頂いたことへ心からお礼申し上げる次第です。